



学友会

令和7年度 学友会が始動しました！

【学友会執行部 会長】



学友会執行部会長を務めることとなりました、保健衛生学部リハビリテーション学科 理学療法専攻3年の植松拓未です。

学友会は、目指すべき医療人像に向けて、学生生活の充実と向上を目的とした学生による学生のための組織で、学生間の交流を促進するための各種企画を行ったり、大学側との意見交換の場を設けたりしています。昨年度の企画では、テーブルマナー講習や京都へのバスツアーなどを実施し、非常に好評で、例年よりも多くの学生に参加いただきました。今年度は、バスツアーなどの人気企画はもちろんのこと、より魅力的な企画の実施に向けて検討を重ねています。忙しい勉強の合間に一息つけたり、普段関わることのない他学科・他学年との交流がもてるなど、本学の学生一人一人が、より一層充実した学生生活を送れるよう活動してまいります。学友会主催の行事を開催する際には、たくさんの参加をお待ちしています。1年間よろしく願いいたします。

【クラブ・サークル運営委員会 委員長】



クラブ・サークル運営委員会の委員長を務めることとなりました、保健衛生学部 鍼灸サイエンス学科2年の吉川 陸(ラグビー部 部長)です。

4月3日(木)の新入生歓迎会では、1年生の皆さんにクラブ・サークルのアピールをさせていただきました。運動系・文化系を問わずさまざまな団体が登場しましたが、興味があるクラブ・サークルは見つかったでしょうか？クラブやサークルでは、学年や学科を越えた仲間ができますし、普段の授業以外で興味を持てるもの、熱中できるものがあることで、大学生活がより充実したものになると思います。また、活動を通じて社会性や自主性を養うことにもつながります。まだどこにも入部していない方は、本学のホームページやインスタグラムなどでチェックしてみてください。きっと自分自身に合ったものが見つかると思います。

これから1年間、皆さんが充実したクラブ・サークル活動を行えるよう頑張りますので、よろしくお願いいたします。

【大学祭実行委員会 委員長】



大学祭実行委員会の委員長を務めさせていただきますことになりました、保健衛生学部 放射線技術科学科2年の磯貝美聡です。

今年度のテーマは『響け、^{あお}碧のチカラ～Step into the Future～』です。「^{あお}碧」は本学を象徴する色で、「やさしさ」「誠実さ」「希望」を表し、「チカラ」は、学生一人一人が培ってきた想いや学び、「響け」には、その想いが来場者や地域に広がってほしいという願い、「Step into the Future」にはこの大学祭が未来への一歩になるように、という意味がそれぞれ込められています。

碧鈴祭は11月8日(土)、9日(日)に白子キャンパスでの開催を計画しています。

大学祭を彩る模擬店の出店やステージでの有志発表など、クラブ・サークルだけでなく友人同士での応募も大歓迎です。大学全体で碧鈴祭を盛り上げましょう。1年間よろしく願いいたします。

<学生課>

新入生歓迎会を行いました

医療栄養学科 新入生と上級生と教員の交流会

保健衛生学部 医療栄養学科 助教 若杉 悠佑

5月29日(木)千代崎キャンパス学生食堂(レムシャイド)にて、医療栄養学科の新入生歓迎会を開催しました。この歓迎会は、学年の垣根を越えた交流を目的に3年生の有志が企画し、1年生31名、2～4年生31名、教員13名の総勢75名が参加しました。

会が始まると、最初は少し緊張した面持ちだった新入生たちも、当学科の学生らしく美味しい食事を囲んで食べ物のお話で盛り上がるうちに、自然と打ち解けていきました。上級生や教員との交流を通じて、新入生たちは定期試験や実験実習など、大学生活に関する様々な疑問や不安を解消できただけでなく、卒業研究や就職活動といった将来に向けた貴重な情報も得られた様子でした。終盤に行われたビンゴ大会も大いに盛り上がり、会場は笑顔と活気に満ち溢れていました。

医療栄養学科では、今後も学生間の交流を深める場を積極的に増やしていく予定です。このような取り組みをとおして、新入生を含むすべての学生が充実した大学生活を送れるよう、サポートしてまいります。



鍼灸サイエンス学科 はじめましてが笑顔に変わる歓迎会

保健衛生学部 鍼灸サイエンス学科 助教 宮脇 太郎

5月2日(金)千代崎キャンパスにて、鍼灸サイエンス学科3年生の企画・運営による新入生歓迎会を開催しました。この催しは、新入生を温かく迎え入れると同時に、学年を越えた交流を深めることを目的としています。3年生にとっては初めてのイベント企画・運営のため、不安や戸惑いもみられましたが、「自分たちの手で後輩を歓迎したい」という思いで、懸命に準備を進めていました。

会開始直後は、どの学年もクラスメイトのみで話していましたが、2・3年生の積極的な声掛けもあり、少しずつ学年を越えた会話や笑い声が増えていきました。全員に景品があたるよう工夫したビンゴゲーム大会も実施し、文房具から流行アイテムまで、多彩な景品が揃い、大いに盛り上がりました。会終了後には、新入生から「先輩たちが優しく話しかけてくれて嬉しかった」「大学でこんなに楽しいイベントがあると思っていなかった」という声が聞かれ、3年生からも「準備は大変だったけれど、後輩の笑顔を見て本当にやってよかった」といった感想が寄せられました。

学年間の交流が生まれただけでなく、学生の主体性や協調性を育む機会にもなったと感じました。今後も学生たちが楽しく学べる環境づくりに努め、学科全体で絆と団結力を育んでいければと思います。



薬学科 新入生オンライン歓迎・交流会2025

薬学部 薬学科 准教授 藤原 朋也

薬学科では、新入生が大学での新生活に対して抱える不安を解消することや、遠隔授業に慣れることを目的として、オンライン形式での新入生歓迎・交流会を実施しています。本会はWebキャンパスツアーやオンラインアイスブレイク、アンケート等のイベントで構成され、上級生と教員が協力して運営しています。

今年度の歓迎・交流会は4月5日(土)に開催し、スタッフ29名(2～4年生26名、教員3名)と、新入生が参加しました。実施したそれぞれのイベントにおいて、上級生が状況に応じたコミュニケーションを駆使して新入生の不安を和らげていく様子が伺えました。参加した新入生からは、「先輩や同級生と色々なことを話せてとてもいい時間になった」、「先輩のアドバイスがとても参考になった」、「これからの学生生活がより一層楽しみになった」などの非常に前向きなコメントをいただきました。また、上級生同士の間でも上位学年の学生が下位学年の学生をサポートする頼もしい様子が見られました。

本会が新入生はもちろん、上級生にとっても大学生活をより充実したものにするための一助になったものと思います。

受賞のご報告

看護学科の教員「令和6年度厚生労働大臣表彰」を受賞

看護学部長 倉田 節子

看護学部看護学科 公衆衛生看護学の谷出早由美准教授が、令和6年度厚生労働大臣表彰を受賞しました。この賞は、多年にわたり公衆衛生事業のために献身的活動を続け、その功績が特に顕著である者を表彰するものです。

谷出准教授は、受賞について、喜びと感謝の気持ちを次のように述べられました。

「この度、公衆衛生事業功労者に対する厚生労働大臣表彰をいただき、大変光栄に思います。保健師として公衆衛生活動に携わり、地域の方々の健康を高めるよう努めてまいりました。時に、健康危機管理として災害や感染症への対応などもありましたが、いつも多くの方々と出会い、大きな力をいただきました。今回の受賞もそのおかげです。これからも公衆衛生に関わる職種の一人として、賞に恥じないよう日々の仕事に尽力していきたいと思ひます。最後に、表彰にあたりご尽力いただきました関係者の皆様に深く感謝申し上げます。」

本学看護学科の保健師課程において、実践に根ざした教育指導を展開されているのは、谷出准教授の公衆衛生に真摯に向き合ってきた姿勢が基盤にあると確信しています。

今後も谷出准教授のさらなるご活躍を期待し、看護学科教員一同お祝い申し上げます。



大学院薬学研究科の院生「学生優秀発表賞」を受賞

副学長(大学院・研究担当) 鈴木 宏治

3月26日(水)～29日(土)福岡市で開催された日本薬学会第145年会において、大学院薬学研究科の大井勇秀院生と山田拓磨院生がともに学生優秀発表賞を受賞しました。

大井院生(写真上)は「ビタミンB6を用いた毒性終末糖化産物(TAGE)起因性神経軸索変性抑制の機序解明」についてポスター発表を行いました。これまでに郡山教授らは、グリセルアルデヒド由来のadvanced glycation end product(AGE)は、他の糖質由来のAGEと比べて強い中枢神経障害(毒性)作用を示すことを発見し、toxic AGE(TAGE)と呼ばれています。今回、大井院生らはTAGEにより生じる神経軸索変性が、アルツハイマー病でみられる病理変化と類似することを示し、その抑制の可能性について考察し、高い評価をいただきました。本研究には、薬学科の古川絢子助教、郡山恵樹教授(指導教員)が共同研究者として参画しました。

山田院生(写真下)は「一本鎖DNA液滴を高効率に形成するカチオン性白金(II)二核錯体」について、物理系薬学分野のセッションで口頭発表を行いました。これまで米田教授、田代准教授らは、一本鎖DNA溶液にカチオン性白金二核錯体を加えると液-液相分離が起こり、DNA液滴が形成されることを発見してきました。今回、山田院生は、一本鎖DNAの塩基配列によって液滴の形成効率が変化し、その原因が白金錯体とそれぞれの塩基の結合様式の違いにあることを明らかにしました。発表内容と質疑応答態度の両面で高い評価をいただきました。本研究には、薬学科の植村雅子助教、田代竜准教授、米田誠治教授(指導教員)が共同研究者として参画しました。

両院生の益々の活躍に期待します。



臨床工学科の学生「成績優秀賞」を受賞

医用工学部 臨床工学科3年 青木 大河・伊藤 万智

臨床工学科では、入学から2年次までのGPAをもとに、他の学生の範となるような、特に優れた成績を収めた3年生を毎年若干名、年度はじめのガイダンスで表彰(賞状及び副賞の授与)することになりました。以下、今年度受賞者2名の喜びの声をお届けします。

- 青木大河 「このたび成績優秀者として表彰いただき、とても嬉しく思います。日々の積み重ねがこのような形で実を結び、努力の大切さを改めて実感することができました。今回の結果に慢心せず、今後も日々努力を続け、将来より活躍できる臨床工学技士を目指していきたいと思ひます。」
- 伊藤万智 「この度は成績優秀賞をいただき、大変光栄に思ひます。日々、温かいご指導をしてくださった先生方、そして共に学ぶ仲間へ心から感謝しています。この受賞を励みに、今後も専門知識をさらに深め、将来は臨床工学技士として医療現場に貢献できるよう、より一層精進していきます。」

両名のさらなる活躍とともに、国家試験やME技術実力検定試験合格、ならびに卒業研究等から始まる科学的探究活動へ向け、学科全体でより一層、学業に対する意識が高まることを期待しています。

<説明：臨床工学科 IR/データ分析担当>



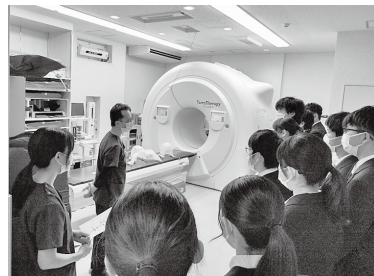
医療人底力教育「医療人底力実践Ⅰ(学科プログラム)」を実施

放射線技術科学科 病院見学を実施

保健衛生学部 放射線技術科学科 助教 鈴木 恵子

放射線技術科学科1年生対象の科目「医療人底力実践Ⅰ(学科プログラム)」において、5月15日(木)と22日(木)の2回に分かれて鈴鹿中央総合病院、三重県立総合医療センターにて病院見学を行いました。病院見学にあたり、学生の服装や髪型等、事前に身だしなみの確認を行い、院内での振る舞いについても指導したことにより、気持ちを引き締めて病院見学に臨めたように思います。

病院見学では診療放射線技師の先生方に検査の種類、取り扱う装置、放射線のことなど、業務内容や業務に必要な知識をお話いただきました。また、実際に検査を行う現場を見ながらそれぞれの装置や検査内容について詳しく説明していただき、時には検査や治療に必要な固定具に触れさせてもらい、学生も疑問に思ったことや初めて見るものに関して質問をしながら興味深く話を聞いていました。ドクターヘリのヘリポートを見学できた学生もあり、大学では経験できない多くのことを体験できたことと思います。今回の病院見学によって、学生の皆さんが将来の仕事により一層興味を持ち、これからの勉強の動機付けになることを期待しています。



作業療法学専攻 初めての施設見学実習での貴重な体験

保健衛生学部 リハビリテーション学科 助教 石川 真太郎

5月22日(木)と29日(木)作業療法学専攻の1年生が「医療人底力実践Ⅰ(学科プログラム)」の一環として、桜の森白子ホームにて施設見学実習を行いました。

最初に、伊藤施設長から社会福祉法人サムス会の役割について説明を受けました。有名な企業を例に挙げながら、分かりやすく地域で担う役割を説明していただき、施設長自身の仕事に対する情熱や思いを強く感じました。続いて、実際に施設内に移動し、利用者の方々との交流が始まりました。普段は元気な学生たちですが、初めての学外実習ということで緊張している様子が見受けられました。しかし、時間が経つにつれて学生たちの緊張もほぐれ、話題を提供して積極的に会話を試みる学生や、利用者の方の語りをじっくりと傾聴する学生が見られました。

実習後には、「思うように会話ができなかった」「話を切り出すタイミングが難しかった」など、学生たちから様々な感想が寄せられました。この体験を通じて、コミュニケーションの難しさや、相手に寄り添うことの重要性を改めて実感したようです。今回の実習は、学生たちにとって自らの成長のきっかけとなり、今後の学びに大きな影響を与えるものだったのではないかと感じています。

医療健康データサイエンス学科 附属桜の森病院を見学

医用工学部 医療健康データサイエンス学科 教授 窪田 英明

5月8日(木)学科1年次の科目「医療人底力実践Ⅰ(学科プログラム)」の学内施設実習で、桜の森病院を見学させていただきました。院長の渡部秀樹先生をはじめ、病院スタッフの皆さまにはご多忙にもかかわらず、親切に対応していただき大変感謝しています。下記は感想レポートの一部です。

- 特に印象に残ったのは「こもれび」というファミリールームです。病院というと外傷にばかり目が行くものだと思っていたのですが、亡くなられた方の遺族の精神ケアのための場所が用意されていることが、とても意外に感じました。
- 特に印象に残ったのはカンファレンスの様子でした。そこでは患者さんのデータが絶え間なくやってきて、それを口頭やコンピュータシステムを通じて共有、処理している様子が伺えました。情報伝達能力や、データサイエンス的な知識などの重要性を実感しました。その後、各部屋を見学させていただき、患者さんとそのご家族に寄り添った体制は素敵だと思いました。
- 看護師の方が中心となりチームワークがまとまっていて、それぞれの患者さんに寄り添っていることが感じられました。また、「お別れが近づいている」という言葉がとても印象に残りました。医療の場において、生と死の価値観が大切だと改めて感じました。そして、看護師の方の患者さん情報がキーとなっており、様々な専門職種の方がキーパーソンになっているのだらうと思いました。



カンファレンスも見学させていただきました

臨床検査学専攻 2024年度臨床実習報告会を開催して

保健衛生学部 臨床検査学科 准教授 福岡 恵子

4月25日(金)千代崎キャンパスにて、医療栄養学科 臨床検査学専攻4年生の臨床実習報告会が開催されました。

報告会では、実習受け入れ施設の技師長や実習責任者の方々、20施設の先生方に参加いただきました。先生方からは実習生に向けたコメントや激励の言葉をいただき、学生にとっては集大成となる発表の場であるとともに心に響く報告会となりました。我々教員も実習をやり遂げた学生たちの成長を肌で感じることができました。

実習報告では、聴講していた3年生からも多くの質問があり、質問に丁寧に対応する4年生の姿を見てみると、医療人として一回りも二回りも成長した様子がうかがえ、実習準備や手配に奔走した教員にとっては、気持ちの良い充実感や達成感を得ることができた報告会であったのではないかと思います。

臨床実習は文科省の新カリキュラムにより30日間から45日間に延長、同時に実習の必修項目や評価方法に細則が定められ新たなフェーズに突入しました。実習期間の延長は報告会の準備期間の短縮を招き、報告会開催には学生・教員共に難しい舵取りが必要になりましたが、今後も油断する事なく、更なる臨床実習の充実を目指して邁進していきたいと思っています。

精神保健福祉士実習を終えて

保健衛生学部 医療福祉学科 医療福祉学専攻4年 大川 翔生

2月から3月にかけて、精神科病院と障害者施設で精神保健福祉士の実習を行いました。実習を通して、精神保健福祉士としての基本姿勢である「利用者・患者の意思の尊重」と「生活者としての捉え方」を中心に、多職種連携や地域支援、リハビリ、成年後見制度など、多様な実践を経験しました。

実習開始前は「治療の場＝支援」と捉えていたのですが、人権や自己決定の重要性に気づき、自己の支援観に変化が生まれました。印象に残ったエピソードは、退院意思を持つ患者への関わりから、「家族の意向」や「リスク管理」に偏っていた自分の視点を再考し、本人の生き方を尊重する重要性を学んだことです。また、幻聴と共に暮らす利用者との関わりから、「治すべき」という固定観念に疑問を持ち、障害を生活の一部と認める視点を学びました。

さらに、支援の中で伝わっているかどうかを自分の主観で判断しがちだったことや、施設を地域から分離して捉えていた視点に気づき、自己覚知を深めることができました。そのことで、私は、患者・利用者とともに悩み、向き合い、寄り添う姿勢を意識するようになりました。実習の経験を通じて、私は精神保健福祉士として“ゆらぎの中の支援”の在り方と、自らの支援観を見つめ直す貴重な機会となりました。

徒手筋力テストの被験者体験を通して学んだこと

保健衛生学部 リハビリテーション学科 理学療法学専攻2年 三宅 花道

5月22日(木)理学療法学専攻2年生が、3年生の徒手筋力テストの被験者(患者役)を体験しました。先輩方の振る舞いを見て、患者さんへの接し方を学ぶとともに、自ら徒手筋力テストを体験することで、実際に経験してみなければわからない多くのことを学ぶことができました。

徒手筋力テストとは、理学療法士が手で抵抗を加えるなどして患者さんの筋力を評価する方法です。力を入れるタイミングがズレたり、力が強すぎると患者さんに怪我をさせてしまう可能性があります。また、患者さんに不快感を与えてしまうこともあります。そのため、理学療法士には繊細な技術と、相手の反応を読み取る観察力が大切であることを痛感しました。さらに、治療中に「痛くないですか?」や「力を入れますよ」などの声かけがあることで、安心してテストを受けることができました。声かけがなければ不安や緊張感が高まることで無意識に力が入ってしまい、正確な評価ができなと感じました。

理学療法士にとって、技術だけでなく、患者さんの気持ちを考え行動することも大切だと改めて感じました。この先、自分が評価する立場になった時は、今回の経験を忘れずに、「自分ならどうされたいか」を常に意識しながら行動しようと思いました。



放射線技術科学科 画像読影システム実習室を開設

保健衛生学部 放射線技術科学科 准教授 中舎 幸司

放射線技術科学科実習室内において、新たに画像読影システム実習室を開設しました。

画像読影システム実習室では、PACS（医療用画像管理システム）、SYNAPSE SAI ビューア、3D画像解析システム（SYNAPSE VINCENT）を搭載したPC24台を導入しました。本実習室では2025年度前期学内実習より稼働し、学内実習SAIビューアを用いて画像読影やSTAT画像報告、またVINCENTを用いて3D画像処理体験を行っています。現在の診療放射線技師の業務内で画像のチェック（読影補助）をしている施設も多くなっています。また臨床現場では3D画像の重要性も高まり、詳細な3D画像を提供することで診断能の向上に繋がっています。学生は学内実習でこのようなことも体験し、診療放射線技師になるための技術の向上を図っています。本実習室ではPCを24台設置しており、学生一人一人がPCを操作して実習を行うことができます。

本学科では、現在の臨床現場のニーズに合う診療放射線技師の輩出を目指しています。今後も新しい技術を取り入れ、学生が臨床現場に出たときに即戦力となるように、さらなる教育をしていきたいと思っています。



P-BET(小児のための応急手当普及チーム)が始動

保健衛生学部 救急救命学科 教授 神藏 貴久

救急救命学科の学生が立ち上げたサークル「P-BET(小児のための応急手当普及チーム)」が、5月14日(水)に鈴鹿市のさくら幼稚園で初めての普及活動を実施しました。

昨今、保育施設で園児がおやつやリンゴを食べたあとに窒息状態になり命を落とした事例や、小学校で生徒が給食のうずらの卵を食べたあとに窒息状態になり命を落とした事例など、痛ましいニュースを目にすることがありました。このような悲しい出来事に対して「自分たちに何かできることはないか」との思いから、救急救命学科の学生が小児のための応急手当の普及を目的に「P-BET」を立ち上げました。現在は2年生を中心に活動を行っており、講習会の構成や資料を学生たちが事前に考えて用意し、当日の講師も担います。



この日は、同園の教諭21名を対象に、アナフィラキシーの理解やエビペンの使用方法、異物の除去などについて、体験学習をメインに講習を行いました。また、中日新聞、伊勢新聞、CTY・CNSの方々にも取材いただき、インタビューを受けた学生は、「今後も実践を交えた普及活動を行っていきたい」と意欲を語っていました。

今回の活動には、教員だけではなく、事務局の方々のご尽力もありました。学生はそのことを忘れずに、今後も明るく前向きに活動していくことを願っています。

最上級に楽しめた！ 救急救命学科初の交流会！

保健衛生学部 救急救命学科4年 礒部 莉帆・田畑 叶夢・橋本 樹

6月1日(日)白子キャンパスにて、救急救命学科の交流会としてバーベキュー大会を初めて開催しました。学科全体の絆が深まる、有意義な機会となりました。

救急救命学科は2022年4月に開設された学科であり、今年度より1～4年生の全学年が揃いました。そこで学年や立場を越えた交流を目的にバーベキューを企画し、学科教員と学生の約40名が参加しました。

当日は天候にも恵まれ、会場は笑顔と活気で溢れました。お肉や焼きそばを囲みながら学科内の交流が自然と生まれ、お互いの距離が縮まった瞬間を多く目にしました。日常ではあまり接点のない学年同士が勉強の相談をしたり、教員と普段はできないようなざっくばらんな話で盛り上がりたりと、貴重な時間を過ごすことができました。

今回の交流会を通して、大学生活や就職活動に活かせるものを得られたかと思えます。学科内のコミュニケーションが増え、より良い雰囲気になることを願っています。今後もこうした活動を定期的に開催し、学年を越えて連携を図ることのできる関係を大切にしていきたいです。

最後に、ご支援いただいた先生方をはじめ、交流会に携わった皆さまに、心から感謝申し上げます。



第17回国際小児がん学会アジア地域総会への参加

副学長(教務・教育改革担当) 堀 浩樹

世界における唯一の小児がんに関する学術団体である「国際小児がん学会(SIOP)」のアジア地域総会が、4月12日(土)～15日(火)に中東・サウジアラビアの首都・リアドで開催されました。私は、昨年10月までこの学会のアジア地域プレジデントを務めていたこともあり、学会事務局から招待され、開会式での挨拶や基調講演などを行ってきました。

現在、世界保健機関(WHO)が、がんの子どもの治療成績の地球規模での格差を縮小させることを目指して、小児がんグローバル・イニシアティブ(WHO-GICC)を展開しています。活動の対象となる国は、アジア、アフリカ、南アメリカの国々であり、とりわけ世界の小児がん患者の約半数が発生するアジアでの活動が重要になっています。この学会では、アジアでの小児がん診療の課題と進歩を共有し、地域内での協力体制の構築に向けての議論を行いました。日本には、アジアにおけるリーダーとして、日本国内での診療経験と日本の高い技術力を活かした国際貢献が期待されています。学生の皆さんには、グローバル社会で貢献できる医療人を目指して、国際的な活動にも積極的に参加をしてほしいと思います。



開会式後の集合写真
(筆者は最前列右から2人目)

「短期療法を学ぶ会 三重支部」定例研修会を開催

保健衛生学部 医療福祉学科 臨床心理学専攻 助教 奥山 滋樹

5月18日(日)千代崎キャンパスにて、「短期療法を学ぶ会 三重支部」の2025年度第1回定例研修会を開催しました。短期療法とは、来談される方自身やその方を取り巻く環境の強みや健康的な側面に着目し、比較的短い期間での問題解決を志向する心理療法です。ブリーフセラピー(Brief Therapy)とも呼ばれ、諸外国でも広く知られています。また、実践の担い手も心理職のみに限定されず、福祉職や教師、看護職など様々な職種による実践がなされています。

日本国内では国際ブリーフセラピー協会が中心となって訓練と研究を行っており、「短期療法を学ぶ会」は支部という位置づけで活動を行っています。全国に21の支部があり、各地で定期的に研修や事例検討が開催されています。三重支部はコロナ禍で活動を休止していたのですが、今年度より本格的に活動再開となりました。

当日は本学の大学院生に加え、県内の心理職や関連職種の方々からも参加希望があり、16名の方にご参加いただきました。今年度は残り3回の開催(8月、11月、2月)を予定しており、ロールプレイや事例検討などを行う計画です。年度途中からの参加も申し受けています。興味のある方がいらっしゃいましたら、QRコードからご確認ください。



第7回三重看護研究会学術集会を開催

三重看護研究会理事長・第7回三重看護研究会学術集会副大会長・看護学部長 倉田 節子

5月24日(土)白子キャンパスにて、「セルフ・コンパッションがもたらす看護ケアの革新」をテーマに、第7回三重看護研究会学術集会を開催しました。本研究会は、三重県の看護学の学術的発展と看護実践の質向上をめざし2017年に設立されました。第7回学術集会は、大会長所属のJA三重厚生連鈴鹿中央総合病院と本学が連携して企画運営しました。

「セルフ・コンパッション」とは、「自分への慈しみ」を意味します。他者を思いやるように自分自身を大切に思うことが対象者へのよりよいケアにつながることを期待し、基調講演では本学客員教授の大西和子先生を迎え、「ケアにつなぐストレスマネジメント」についてご講演をいただきました。また、シンポジウムでは、セルフ・コンパッションの学術的な知識や看護現場での具体的な実践方法をもとにディスカッションしました。他に、会員の日頃の研究・看護実践成果をまとめた一般演題発表や、交流集会の場で多くの情報共有と意見交換がなされました。参加した150名が立場や役割を超えて交流し、これからの看護や研究に活かせる機会となりました。

学術集会開催にあたり、協賛や施設利用等ご支援いただいた鈴鹿医療科学大学に深く感謝申し上げます。



「東西医学を融合した新しい薬膳」発信プロジェクトに関する協定を締結

4月28日(月)鈴鹿市と本学は、「東西医学を融合した新しい薬膳」発信プロジェクトに関する協定を締結しました。

平成15年に「学官連携に関する協定」を締結し、平成30年には日本薬膳学会から「健康寿命の延伸を図る健美和膳の開発拠点形成」への協力を鈴鹿市へ提案するなど、様々な取り組みを連携し実施してきました。

今回の協定はそれを更に推し進め、「東西医学を融合した新しい薬膳」を発信する手段の一つとして、日本薬膳学会が提唱する「新しい薬膳」を提供する施設を、桜の森公園内に整備することなどが実施計画に盛り込まれています。市民の健康寿命の延伸、食育推進や人材育成などを目的とし、立地を活かして公園の賑わい創出にもつなげていきます。

日本薬膳学会は、平成25年に高木久代 代表理事(副学長・鍼灸サイエンス学科教授)をはじめ、本学教員が中心となり設立されました。大学教員によって大学教育水準で薬膳に関する活動が行われている日本では唯一の学会で、東洋医学の中医学に立脚した食養生と、西洋医学の科学的根拠に基づく栄養学を融合した「新しい薬膳」の普及に努めています。

今後、双方の持つ資源を活用し、相互連携と協働により、市民の皆さまの健康増進に寄与してまいります。

＜企画広報課＞



末松則子 鈴鹿市長と高木純一 理事長

新任教員のご紹介

大学事務局 教務課 福島 貴大



前職では労働局の職員として、職業紹介や総務関係等の行政事務に従事していました。本学では教務課に配属となり、学生達の元気な姿にエネルギーをもらって日々業務に励んでいます。本学のさらなる発展に貢献できるよう頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。

大学事務局 入学課 森田 滯



大学事務、農業系企業での販売・出荷担当を経て、本学に入職しました。現在は入学課にて学生募集や入試の業務に携わっています。慣れないことも多いですが、本学の発展に貢献できるよう、精一杯頑張りますので、よろしくお願いいたします。

大学事務局 学生課 杉本 佳史



前職は専門学校で学生募集から学校運営まで幅広く業務に携わっておりました。現在、学生課に配属となり学生がより良い学生生活を送れるようにサポートさせていただいております。本学の発展に貢献できるよう、精一杯頑張りますので、どうぞよろしくお願い致します。

2025年度 教育支援の会「総会」開催

6月8日(日)千代崎キャンパスにて教育支援の会「総会」を開催しました。本会は在学生の保護者で構成される組織で、学生のクラブ活動や就職対策支援など、学生生活をより充実させることを目的としています。

当日は約120名の保護者の方々にご出席をいただき、総会では「令和6年度収支決算報告」「令和7年度事業計画(案)及び収支予算(案)」について審議し、全ての事項において承認されました。

総会終了後は学科・専攻に分かれ、「学科別説明会」を実施しました。各学科より教育内容や就職状況について説明が行われ、ご参加いただいた皆様には関心を強く持っていただけたように感じます。なお、10月5日(日)には、「保護者懇談会」を予定しております。

今後とも教育支援の会活動へのご理解・ご協力の程、よろしくお願い申し上げます。

＜教育支援の会事務局・学生課＞



教育支援の会 令和 6 年度収支決算報告書

(自) 令和6年4月1日～ (至) 令和7年3月31日

(単位：円)

収入	繰越金	前年度繰越金	57,477,417	内 訳	
	会費収入	新入生（4年制）	27,600,000	薬学部以外の10学科 567名分	22,680,000
		新入生（6年制）		薬学部 82名分	4,920,000
		編入生	130,000	薬2年次1名、5年次1名／2年次2名	130,000
	利息	利息	171	定期預金利息	171
合計（A）			85,207,588		

(単位：円)

支 出		令和6年度予算			決 算 額	予算－決算	
	科 目	金 額	内 訳	金 額			
	学生生活指導費	学友会行事協力費	4,200,000	新入生歓迎会助成	1,000,000	1,000,000	0
				謝恩会助成	3,200,000	3,200,000	0
		課外活動助成費	3,000,000	クラブ・サークル活動助成	3,000,000	3,000,000	0
		大学行事協力費	3,330,000	大学祭助成	3,290,000	3,290,000	0
				大学周辺清掃時飲物代助成	40,000	40,000	0
		学生指導補助費	2,200,000	新入生オリエンテーション	200,000	135,190	64,810
				学生相談室関連補助	2,000,000	2,000,000	0
		学生生活広報費	1,000,000	大学広報費作成補助	1,000,000	1,000,000	0
		実習検査助成費	2,600,000	実習用抗体検査費用助成	2,600,000	2,600,000	0
		施設設備充実費	900,000	設備・備品助成	900,000	777,040	122,960
		大会・学会参加補助費	800,000	大会・学会参加補助費	800,000	120,000	680,000
	小 計	18,030,000			17,162,230	867,770	
	就職対策補助費	就職対策補助	6,700,000	就職指導関連補助	6,700,000	5,529,628	1,170,372
		小 計	6,700,000			5,529,628	1,170,372
	教育研究補助費		600,000	書籍購入補助	600,000	600,000	0
		小 計	600,000			600,000	0
	運営費		2,580,000	総会・学科別懇談会諸費用	700,000	590,753	109,247
				保護者懇談会諸費用	1,700,000	1,455,895	244,105
				役員会諸費用	180,000	124,280	55,720
		小 計	2,580,000			2,170,928	409,072
	予備費		260,000		260,000	165,545	94,455
		小 計	260,000			165,545	94,455
	予算額計	28,170,000		決算額合計 (B)	25,628,331	2,541,669	

令和7年3月31日預金残高（A）－（B） 59,579,257
未払金（令和6年度経費分）（C） 30,230

令和7年度への繰越金（A）－（B）－（C） 59,549,027円 （令和7年3月31日預金残高）

教育支援の会 令和 7 年度収支予算

(自) 令和7年4月1日～ (至) 令和8年3月31日

(単位：円)

収入	内 訳			
	繰越金		59,549,027	令和7年3月31日時点の預金残高 59,579,257
	現金繰越金		0	前年度未払金 30,230
				前年度現金繰越金 0
	会費収入	新入生（4年制）	24,540,000	薬学部以外の10学科 498名分 19,920,000
		新入生（6年制）		薬学部 77名分 4,620,000
		編入生		薬3年次1名／2年次1名 70,000
	利息	利息	171	定期預金利息 171
合計（A）			84,159,198	

(令和7年4月1日現在) 学生数 2,688名 令和7年度予算額目安 26,880,000円 (学生数×10,000円)

(単位：円)

支出	今年度予算						令和6年度実績	備 考
	科目	金額	内 訳	金額				
	学生生活指導費	学友会行事協力費	4,200,000	新入生歓迎会助成	1,000,000	1,000,000		歓迎会・クラブ紹介・パンフレット等作成
				卒業記念パーティー助成	3,200,000	3,200,000		卒業記念パーティー
		課外活動助成費	3,000,000	クラブ・サークル活動助成	3,000,000	3,000,000		活動支援
		大学行事協力費	3,240,000	大学祭助成	3,200,000	3,290,000		大学祭助成
				大学周辺清掃助成	40,000	40,000		年2回実施
		学生指導補助費	1,700,000	新入生オリエンテーション助成	200,000	135,190		新入生へのメッセージ冊子配布
				学生相談室関連助成	1,500,000	2,000,000		学生相談室における学生への対応の充実
		学生生活広報費	1,000,000	大学広報費作成助成	1,000,000	1,000,000		広報誌の制作・郵送
		実習検査助成費	1,700,000	実習用抗体検査費用助成	1,700,000	2,600,000		抗体検査助成
		施設設備充実費	900,000	設備・備品助成	900,000	777,040		寄贈備品
		学生生活充実費	700,000	学生満足度向上に向けた取組助成	700,000	0		
		大会・学会参加補助費	800,000	大会・学会参加助成	800,000	140,000		学生の学会発表・全国レベルの大会出場への参加
	就職対策補助費	就職対策補助費	6,000,000	就職指導関連助成	6,000,000	5,539,858		ガイダンス・講座・説明会等の支援
	教育研究補助費	教育研究補助費	600,000	書籍購入助成	600,000	600,000		学生図書購入助成
	運営費	運営費	2,800,000	総会・学科別説明会等諸費用	800,000	590,753		総会・学科別説明会等開催(6月11日)
				保護者個別懇談会等諸費用	1,800,000	1,455,895		保護者個別懇談会等開催(10月1日)
				役員会等諸費用	200,000	124,280		役員会等開催(2月4日)
	予備費	予備費	240,000	予備費用	240,000	165,545		学生への香典・消耗品等、予算項目外の支出に対する対応
合計			予算額計（B） 26,880,000			25,658,561		

次年度繰越予定金額（A）－（B） 57,279,198円

学校法人鈴鹿医療科学大学 令和6年度決算報告

●資金収支計算書 令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

(単位：円)

収入の部	金額	支出の部	金額
学生生徒等納付金収入	4,411,561,500	人件費支出	3,325,658,294
手数料収入	58,690,420	教育研究経費支出	1,454,156,715
寄付金収入	30,594,142	管理経費支出	397,371,993
補助金収入	752,402,779	借入金等利息支出	23,252,867
資産売却収入	583,088,025	借入金等返済支出	205,000,000
付随事業・収益事業収入	491,468,918	施設関係支出	303,602,440
受取利息・配当金収入	161,779,512	設備関係支出	367,047,765
雑収入	182,792,632	資産運用支出	859,623,850
借入金等収入	0	その他の支出	357,202,991
前受金収入	746,571,420	資金支出調整勘定	△ 221,773,874
その他の収入	189,924,255	翌年度繰越支払資金	3,630,408,462
資金収入調整勘定	△ 937,017,873	支出の部合計	10,701,551,503
前年度繰越支払資金	4,029,695,773		
収入の部合計	10,701,551,503		

【資金収支計算書・活動区分資金収支計算書の概要】

資金収支計算書は、会計年度中に行われた資金の動きを表したもので、活動区分資金収支計算書は、その資金の動きを活動区分ごとに集計したものです。
 学生生徒等納付金収入のうち、保健衛生学部救急救命学科（令和4年4月に開設）については、1・2・3年生の分が計上されています。
 支出については、白子キャンパス体育館建設費の一部（令和7年度完成予定）や、大学基幹サーバーの更新費が含まれています。

●活動区分資金収支計算書 令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

(単位：円)

科 目	金額
教育活動資金収入計	5,877,802,391
教育活動資金支出計	5,177,187,002
差引	700,615,389
調整勘定等	△ 57,194,578
教育活動資金収支差額	643,420,811
科 目	金額
施設整備等活動資金収入計	49,708,000
施設整備等活動資金支出計	670,650,205
差引	△ 620,942,205
調整勘定等	△ 24,990,868
施設整備等活動資金収支差額	△ 645,933,073
小計（教育活動資金収支差額＋施設整備等活動資金収支差額）	△ 2,512,262
科 目	金額
その他の活動資金収入計	793,597,537
その他の活動資金支出計	1,192,054,520
差引	△ 398,456,983
調整勘定等	1,681,934
その他の活動資金収支差額	△ 396,775,049
支払資金の増減額（小計＋その他の活動資金収支差額）	△ 399,287,311
前年度繰越支払資金	4,029,695,773
翌年度繰越支払資金	3,630,408,462

●事業活動収支計算書 令和6年4月1日から令和7年3月31日まで

(単位：円)

科 目	金額
学生生徒等納付金	4,411,561,500
手数料	58,690,420
寄付金	30,594,142
経常費等補助金	702,694,779
付随事業収入	491,468,918
雑収入	182,792,632
教育活動収入計	5,877,802,391
科 目	金額
人件費	3,384,164,286
教育研究経費	2,114,183,209
管理経費	455,760,304
徴収不能額等	0
教育活動支出計	5,954,107,799
教育活動収支差額	△ 76,305,408
科 目	金額
受取利息・配当金	161,779,512
その他の教育活動外収入	0
教育活動外収入計	161,779,512
科 目	金額
借入金等利息	23,252,867
その他の教育活動外支出	0
教育活動外支出計	23,252,867
教育活動収支差額	138,526,645
経常収支差額	62,221,237

●貸借対照表 令和7年3月31日現在

科 目	本年度末	前年度末	増減
固定資産	16,818,377,796	16,845,029,124	△ 26,651,328
有形固定資産	16,506,977,519	16,529,250,177	△ 22,272,658
特定資産	300,000,000	300,000,000	0
その他の固定資産	11,400,277	15,778,947	△ 4,378,670
流動資産	5,859,411,888	5,884,832,508	△ 25,420,620
資産の部 合計	22,677,789,684	22,729,861,632	△ 52,071,948
科 目	本年度末	前年度末	増減
固定負債	2,814,253,001	2,950,703,249	△ 136,450,248
流動負債	1,327,943,321	1,401,643,914	△ 73,700,593
負債の部 合計	4,142,196,322	4,352,347,163	△ 210,150,841
科 目	本年度末	前年度末	増減
基本金	27,389,386,315	26,731,626,368	657,759,947
繰越収支差額	△ 8,853,792,953	△ 8,354,111,899	△ 499,681,054
純資産の部 合計	18,535,593,362	18,377,514,469	158,078,893
負債及び純資産の部 合計	22,677,789,684	22,729,861,632	△ 52,071,948

●財産目録 令和7年3月31日現在

(単位：円)

資産総額	22,677,789,684
基本財産	16,518,377,796
運用財産	6,159,411,888
負債総額	4,142,196,322
正味財産	18,535,593,362

【貸借対照表と財産目録の概要】

貸借対照表は、資産や負債の状況を表すもので、財産目録はその内訳を表すものです。
 当年度は、白子キャンパス5号館空調更新工事や大学基幹サーバー更新のほか、各学科の施設改修・備品の新規取得を行いました。また、負債額は、借入金の返済により減少し、正味財産（総資産－総負債）は、1.6億円増加しています。

学生相談室通信

学生相談室カウンセラー 加藤 有加

初めまして。今年度より学生相談室でカウンセラーとして勤務させていただくことになりました、加藤有加と申します。毎週月曜日を担当しています。皆さまどうぞよろしくお願いいたします。

春学期もいよいよ終わりを迎える時期となりました。皆さんはいかがお過ごしですか。1年生は新しい環境に慣れたところかもしれませんね。

新年度の始まりとともに気の張っている状態から、夏休みに入り心身が和らぐ一方で、疲れが出てきたり、何となく気持ちが落ち着かない…そんなことはありませんか？

医療・福祉・心理の道を志す皆さんも、そしてそうでない皆さんも、日々学びに真摯に向き合っていることと思います。ただ、真面目で一生懸命な方ほど、自分に厳しくなりすぎたり、不安や疲れに気づきにくくなったりすることもあります。特に夏のように気温や湿度が高く、身体にとっても負荷のかかる時期は、心も少し揺らぎやすくなるものです。

もし「最近、調子が出ない」「誰かに話を聞いてもらいたい」と感じたら、それは休息や支えが必要なサインかもしれません。学生相談室では、そんなサインを受けとめる場所として、皆さんをお待ちしています。うまく言葉にならなくても大丈夫です。ほっと一息つきに、相談室にいらしてくださいね。



「花火大国バンザーイ!!」

日本の夏の風物詩と言えやっぱり花火だよ。学校が夏休みになると、やってない市町村はないと言うくらい日本中で花火大会が開かれる。日本で1年間にどれくらい花火大会があると思う？ ChatGPTに聞いてみた。ええっ、答えはなんと約7000と出た。これホント？ 日本の市町村数は1700くらいなので、それより多いなんておかしいんじゃないの。おじさんは疑り深いので、もう一度聞き直した。今度は「日本で一年間に花火大会は約7000と言うけど、市町村の数より多いんですか？」と聞いてみた。答えは「はい、日本で開催される年間約7000件の花火大会は、市町村の数よりも多いです」だった。単純に割り算をすれば、1年間に1市町村平均して4回以上花火大会が開かれていることなる。これじゃあ、日本中が「花火ヤンナイト」だね。何それ、アラビアンナイトの親戚か？ 「花火をやないと」気が済まないってこと。花火やらないと・・・

温泉で有名な熱海市や「大曲の花火」の秋田県大仙市、「長岡まつり大花火大会」の新潟県長岡市など観光地や花火産業の盛んな地域では、年間10回以上開催しているというから驚きだ。日本人はホントに祭りと花火が大好きだよ。『祭りだ、祭りだ』『花火だ、花火だ』そんな掛け声を聞いただけで、おじさんも元気が出てくるよ。あんまり調子に乗ると、それこそ花火ブーになっちゃうぞ。それって、鼻血ブーのこと？

そもそも、花火の原料になる火薬は、西暦600年ごろの中国で、薬を作る錬丹術師によって偶然発明されたと言う。火薬は武器になったが、花火にも使われるようになったんだ。現在のような鑑賞する花火は14世紀後半にイタリアのフィレンツェで始まり、すぐに王侯貴族の間で広がり、結婚式や戴冠式などで打ち上げられるようになったんだとか。それが世界中に広がって行ったんだ。

日本で花火が鑑賞されるようになったのは17世紀江戸時代のことで、徳川家康が中国人によって打ち上げられた花火を見たのがきっかけで将軍や大名の間で花火が流行したらしい。本格的に川開きの花火が打ち上げられるようになったのは、それから100年以上経った享保18年(1733年)の大飢饉がきっかけで、八代将軍吉宗が慰霊と悪疫退散を祈って水神祭を行い、その時に花火を打ち上げたのが始まりだと言う。日本が花火大国になったきっかけを作ったのが徳川家康だったなんて。花火だけに、これがホントの「火付け役」だね。

花火大会が1年間に7000も開かれる国なんて日本以外にないだろうね。有無を言わせぬ感じで、「世界一だよな？」とChatGPTにもう一度聞いてみた。答えは「はい、世界最多と考えられています。規模の大小を問わなければ、他国を圧倒しています」だって。おじさんの押しが効いたのかな？ 花火大国・日本バンザーイ!!



強化指定クラブ「女子バスケットボール部」が 第75回三重県バスケットボール一般春季大会で優勝しました！

強化指定クラブ「女子バスケットボール部」マネージャー・保健衛生学部 鍼灸サイエンス学科 2年 早川 葵葉

令和5年4月に発足し、現在3期目となる強化指定クラブ「女子バスケットボール部」が、6月8日(日)～22日(日)に開催された「2025年度 第75回三重県バスケットボール 一般春季大会 女子の部」で優勝しました。

本大会はトーナメント戦で行われ、最終戦は6月22日(日)に津市の安濃中央総合公園内体育館で、準決勝戦・決勝戦が行われました。

決勝戦は、三重県社会人バスケットボール連盟の女子1部リーグに所属する「VEAT」と対戦し、前半は接戦(35対30)になったものの、後半にかけて流れを引き寄せ74対48のスコアで勝ち、参戦2年目で初めて優勝することができました。なお、今大会で上位の成績を収めたことにより、8月30日(土)・31日(日)開催の「三重県総合バスケットボール選手権大会」への参加資格が与えられ、また次の目標へと取り組みを進めていくこととなりました。今回はトーナメント戦期間中に多くの保護者の方にも応援にお越しいただき、観客席からの声援・拍手が選手の力や励みになりました。

9月からは、東海学生バスケットボール・2部リーグ戦も始まりますので、どうか多くの方の応援をよろしくお願いいたします。

<学生課>



行事予定

2025年8月～11月

8月1日(金)～2日(土) 前期・夏期定期試験と解説
3日(日) 第4回オープンキャンパス
4日(月)～9月2日(火) 夏季休業
8日(金)～18日(月) 閉校期間
22日(金)～23日(土)・25日(月)～28日(木) 前期・夏期追・再試験
30日(土) 第5回オープンキャンパス
9月3日(水) 後期ガイダンス
5日(金) 後期・秋期授業開始
15日(月・祝) 月曜授業日
20日(土) 総合型選抜(1期)
21日(日) 大学院1期入試・大学院春期(留学生)入試
23日(火・祝) 火曜授業日
27日(土) 補講日

10月5日(日) 教育支援の会(第2回役員会・保護者懇談会)
11日(土) 補講日
13日(月・祝) 月曜授業日
16日(木) 避難訓練
18日(土) 総合型選抜(2期)・編入学試験第1回
24日(金)・27日(月)～30日(木) 秋期定期試験と解説
11月1日(土) 補講日
3日(月・祝) 月曜授業日
7日(金) 大学祭準備(休講)
8日(土)～9日(日) 大学祭
10日(月) 大学祭片付け(休講)
19日(水) 学校推薦型選抜(専願)・総合型選抜(3期) 千代崎:休講(立入禁止) 白子:休講
20日(木) 学校推薦型選抜(併願) 千代崎:休講(立入禁止) 白子:休講
22日(土) 補講日
29日(土) 秋期追・再試験

※上記予定は変更になる場合があります。A-Portalおよびホームページで最新情報を確認してください。